

学校関係者評価 報告書

令和7年度（令和6年度評価）

— 目 次 —

1. 学校関係者評価の目的と実施状況	1
1-1 学校関係者評価の目的	1
1-2 学校関係者評価委員会の実施	1
1-3 学校関係者評価委員名簿	1
1-4 学校関係者評価の実施方法	1
2. 学校評価の重点項目	2
2-1 教育理念・教育目標	2
2-2 令和6年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	2
3. 学校評価の基準項目(学校関係者評価)	4

学校法人 静岡理工科大学

静岡産業技術専門学校

1. 学校関係者評価の目的と実施状況

1- 1 学校関係者評価の目的

静岡産業技術専門学校の設置学科分野に関係する企業・団体、専門分野の業界団体、卒業生、高等学校、保護者等地域住民など学校関係者で組織された学校関係者評価委員会とする。

学校関係者によって本校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性と透明性を高める。

学校関係者委員会は自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施し、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を受け学校運営の継続的な改善を図ることを目的とする。

1- 2 学校関係者評価委員会の実施

実施日時： 2025年5月22日 18:30～20:15

場 所： 静岡産業技術専門学校 1階 多目的ホール

1- 3 学校関係者評価委員名簿

	区分	氏 名	所属・団体	出欠
1	業界関係者	白鳥 達也	鈴与システムテクノロジー(株)	出席
2	業界関係者	蜂屋 雅基	(株)エイエイピー	欠席
3	業界関係者	松尾 卓明	(株)松尾鉄工所	欠席
4	業界関係者	清水 幸男	医療法人社団チームHSK	出席
5	業界関係者	近藤 直子	社会福祉法人静岡慈恵会 春日保育園	出席
6	業界関係者	大塚 順平	(株)ORENDA WORLD	出席
7	業界関係者	遠藤 正人	(株)杜建築設計事務所	出席
8	高等学校	佐藤 弘卓	静岡県立科学技術高等学校	出席
9	地域有識者	柏木 博州	ライフプラザパートナーズ(株)	出席
10	卒業生	塩谷 剛弘	(株)アイティエス	欠席
11	保護者	伊沢 水木	静岡産業技術専門学校 後援会	出席

1- 4 学校関係者評価の実施方法

2024年度の活動実績を学校より説明し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。自己点検・自己評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果に対する評価、および課題や改善策について下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切であるかを評価
- (2) 今後の取り組むべき課題と解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

学校関係者評価の評価は、基準項目の小項目ごとに自己点検・自己評価を示し自己評価結果が適切であるかどうかを評価した。学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記し、意見についてもとりまとめて記載している。

2. 学校評価の重点項目

2-1 教育理念・教育目標

【教育理念】

社会人として自立するために必要な人間力と高い専門技術を有する人材を育成し、地域社会に貢献する。

【教育目標】

学校教育法に基づき、工業・商業分野における専門実務教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、教育分野における知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与することを目標とする。

【教育ミッション】

「先端技術教育」×「人間教育」2つを柱に職業人を育成

～ Passion × Direction × Time ～

2-2 令和6年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

【経営重点施策（骨子）】

- ・第4次中期計画のKGI「目標達成指標」につながる中期計画実行3年目の目標KPI「業績評価指標」の達成に向かって取り組む
- ・組織的な教職員体制のため、育成研修（OJTを含む）の充実とファカルティ・ディベロップメント、スタッフ・ディベロップメントを推進する
Team SANGIとして学校運営に関わる教職員全員のスキル（能力・専門知識・経験）を最大限に発揮できるチーム開発を推進する
- ・専門学校における職業教育のマネジメントに組織的かつ戦略的に取り組む
学校全体から部署・学科・クラス・授業においてそれぞれのレベルでPDCAサイクルを回す
ステークホルダー（学生・保護者・高校・企業等）の視点に立って成果を可視化し、データを基に取り組みを評価・検証・改善する
産官学連携プロジェクトを推進し、対外的な活動に積極的に関わることで、学生PBL／教員／学校としての実績を通して認知度と対外的な関係性を広げる
卒業生（同窓会）システムによる卒業生とのつながりを活性化
- ・学生・教職員の一貫したマナー向上運動を継続し、学校教育環境の美化と充実を図る
- ・限られたリソースで効果的に成果を上げる教育DX推進と、ハラスメント防止対策や様々なインシデント防止対策を徹底し、学校の一貫したリスクマネジメントを常に意識した組織的な連携体制を確立維持する
- ・県下No.1の専門学校グループとして、質の高い先進的な教育を行い、教育力の更なる向上を目指す
- ・令和7年度入学生250名を確保する
- ・就職内定実績を維持向上させる
- ・学校運営の安定を維持し、学校ブランド力のさらなる強化とグループ校との協働連携により、学園グループの社会的な評価向上を目指す

【活動・運営に関する目標や計画】

＜教務＞

- ・ 各科ごとの就職目標の達成 内定率・専門職率（関連職率）
- ・ 各科ごとの重点目標の達成 ※各科実績報告参照
- ・ 各科ごとの目標入学者数の確保
- ・ 退学率抑制 目標退学率 4 %（30 名）以内
- ・ 地域連携・産官学連携活動として学生 PBL や学生ボランティア活動、外部特別講座を行う
- ・ 新学科「デジタル経営学科」開設、既存 6 学科のカリキュラム改編運用開始
- ・ 学生への職業理解やキャリアデザインの取り組み
- ・ 教員スキルアップへの取り組み

＜就職支援＞

- ・ 就職内定率 1 0 0 %、関連職内定率 9 5 %以上の達成
- ・ 各科ごとの目標とする重点企業への内定と専門職内定率の向上
- ・ 時期・規模・分野に応じた多角的な就職支援活動の計画と実施
- ・ 就活ゼミの運営と教務との連携による就職活動支援
- ・ 卒業予定学生数増加に対応した効率的、効果的な就活支援
- ・ 業界・企業との関係性を構築

＜広報活動＞

- ・ 目標入学者数 2 5 0 名以上の確保
- ・ 女子の入学者数を目標定員 3 0 %以上の確保
- ・ AO エントリー者 170 名以上の確保
- ・ オープンキャンパスの内容充実、1・2 年生向け募集活動の充実
- ・ Web サービス（ホームページ、SNS）等による情報発信の拡大

＜総務＞

- ・ 学生や来訪者への窓口対応とスムーズな電話対応
- ・ ステークホルダーとしての立場を意識した柔軟で的確な対応
- ・ 快適な教育環境を提供するための校内美化への取り組み
- ・ 教務・広報・就職との連携強化
- ・ 正確かつ効率的な事務処理の遂行（むだの削除、コストの削減、DX 推進）

2. 学校評価の基準項目(学校関係者評価)

【評価基準】 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(1) 教育理念・目標

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか
1-2	学校における職業教育の特色は何か
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか
学校関係者評価 3.9	
<u>成果と課題</u> ・ 学生に教育理念・目標を周知徹底するため、当該情報を掲載した学生便覧を配布している。 ・ 入学時の新入生オリエンテーションでは、教務ガイダンスとして学則・教務規定などを教務課長から伝えている。 ・ クラス毎のガイダンスでは、教育課程・学生生活・デュプロマポリシーについて含め説明をしている。 ・ 職業教育の特色は学校案内パンフレットに掲載されている。また、オープンキャンパスや後援会総会では、必ず教務課長から説明している。 ・ 学校の将来構想については、法人内専門学校5校の第4次中期計画として計画され、実行されている。 ・ 学校及び学科ごとの育成人材像については、オープンキャンパス、学校説明会等で説明を実施している。 ・ 保護者に対しては、後援会総会・授業見学会等を通じて説明を実施した。 ・ 授業見学会は、1年生を対象に対面で実施した。 ・ 各学科の教育目標、育成人材像の業界ニーズを把握するため、教育課程編成委員会を年2回開催し外部意見の反映に努めている。	
<u>今後の改善方策</u> ・ 今後も継続して紙媒体、ホームページ掲載などを通して、学校からの情報発信を継続実施する。 ・ デュプロマポリシーに関しては、教員の意識と学生の周知が十分ではない可能性がある。改めて、周知徹底する。 ・ 入学前のオープンキャンパス・学校説明会の開催方法については、Web・SNSの活用方法など周知方法を検討している。 ・ 令和6年度の授業見学会・後援会総会は、対面での開催をした。以下のように、対象学年について問い合わせがある中では、対面以外のオンライン・その他、新しい開催方法を模索していく。 ・ 授業見学会は、2年生以上の実施について少数ではあるが、お問い合わせがある。 ・ 今後、対象学年の検討が必要と考える。	
<u>学校関係者 評価コメント</u> ・ 社会のニーズを捉えた学校の特色を出す方向に向かっている印象があり、とても良いと感じる。 ・ 現段階での問題点をよく理解されている。 ・ 非常に分かりやすく広報活動していると感じる。 ・ 授業見学会の個別対応は可能か（少数の場合） ・ 保育分野においてもICT化が進んでおり、ニーズに合致している。認定絵本士取得についても特色を打ち出しており、良いと感じる。 ・ 授業見学会は、各学年ともに年に何回か実施されると良いと感じる。	

(2) 教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか
2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか
学校関係者評価	
4.0	
<u>成果と課題</u> ・入学時と前期後期の 2 回に分けて、新入生アンケート・授業アンケート・自己発見検査（学生のタイプなどがわかる）スクールライフアンケート（学校の充実度・学生の不安などを調査）の調査を継続している。 ・授業アンケートの「シラバス」の項目については、数年注意してきた。令和 6 年度のアンケート結果としては「覚えていない」という回答があり気になる。改めて、周知徹底する。 ・アンケートのフィードバックは専門学校グループの教育分科会でも課題にしており、令和 6 年度は各講師への早いフィードバックを心がけた。 基本は学科長からフィードバックし、問題がある場合は教務課長面談とした。 問題に気が付いた場合は、アンケート結果を待たず面談を実施してきた。結果、授業内容が改善され、後期から別の講師へ変更するなどの対策が出来た。 ・すべての学科で該当する関連分野の企業・団体との連携を深め、教育課程編成委員会を開催し外部委員からの意見やアイデア、最新の業界動向等を教育カリキュラムやキャリア教育の改善に活かす取り組みを実施している。 ・全ての教員が「関連分野における先端的な知識・技能等を修得」「教員の指導力育成」などの資質向上を目的とした研修に参加した。 ・各科授業内容の理解度については、課題・小テスト・ミニツツペーパーなど確認をし、担当教員が状況を把握している。状況により、補講や課題を行っている。	
<u>今後の改善方策</u> ・公開情報としての科目シラバスに基づいて、成績評価や授業評価の精度を向上させる。 ・上記精度を高めつつ、現在努力義務である第三者評価について、調査・実施に備える。	

学校関係者 評価コメント
・シラバスについては「覚えていない」ことが学びにどの程度影響があるか、学習の目的を見失っていることとイコールではないところもあると思う。 ・中退者について、補講やフォローがどのように学校として対応されているかが見えない。 ・シラバスは難しいと思うが、有効性が向上するように多方面から項目を検討してみたい。 ・アンケートのフィードバックを精査し、素早い対応をしている点が素晴らしい。 ・担任制をとられ、各クラスの先生方が献身的に学生に関わっておられ、保育に必要な「チームワーク」という素養を育てていらっしゃると思う。 ・関連分野の企業・団体との連携を進めている点は、とても良いと感じる。

(3) 教育成果

3-1	就職率の向上が図られているか
3-2	資格取得率の向上が図られているか
3-3	退学率の低減が図られているか
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
学校関係者評価 4.0	
<u>成果と課題</u> ・関連職内定率（履修した分野に関わる職種等への内定割合）を向上させることに重点を置いた学科の運営や就職指導を行い、学校全体として94.4%の関連職内定率を達成することができた。 ・資格取得に関しては、例年の実績相当の資格取得実績をあげることができた。 ・退学率は2.64%（目標4%以内）となり、目標を達成することができた。 ・前年の学校関係者評価委員会にて、「卒業生の社会的な活躍、就職後の定着状況を調査するなど把握のための施策を講じる。」としたが、目新しい施策は講じることが出来なかった。	
<u>今後の改善策</u> ・同窓会サイトが稼働を始めた。このサイトにて、卒業生の状況把握を行いたい。 ・同窓会システムの運用を軌道に乗せ、名簿管理機能に加え、同窓生への情報発信や同窓生からの情報提供が可能なコンテンツを増やし、同窓生同士のつながりを促す。	
<u>学校関係者 評価コメント</u> ・同窓会システムについて、卒業生が社会に出てからの気付きや想いを在校生とも共有できるような場になれば良いと思う。就職先の評価、生の声は一番参考になり、企業側も意識した取り組みができるのではと思う。 ・就職率等すばらしいと感じる。 ・同窓会が学校側の係わりが少ないと、存在するだけになってしまうため、学校側の活動を明確にすると良いと感じる。 ・公立園への就職もあり良い傾向だと思う。 先生方が現場を熟知していることが大きな強みになっていると感じる。 ・同じ学科であっても非常に多くの仕事内容があることを、授業で教えているので、それが低い退学率に繋がっているのではと思う。	

(4) 学生支援

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか
4-5	保護者と適切に連携しているか
4-6	卒業生への支援体制はあるか
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか
4-10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
学校関係者評価 3.9	
<u>成果と課題</u> ・就職支援体制は、『就活ゼミ』を導入しており、学生1人に対して就職担当、担任、就職ゼミ担当の3方向からサポートしている。このことにより就職活動に必要な基本的就職活動リテラシーの指導・サポート体制と、専門職内定率を向上させるための学科・クラス担当からの学生への情報提供・サポート体制を明確化し、内定率、専門職内定率ともに高いレベルでの維持に成功している。 ・学生相談窓口として、クラス担任による通常の対応と、スクールカウンセラーによる相談を毎週1回開設（月曜日）している。 ・学生・保護者の経済的負担を軽減する措置として、高等教育の修学支援新制度に則り対象校の手続きを行っている。 ・総務部門に学生支援機構の奨学金制度や官民の教育ローン制度等の学生・保護者に対するサポート職員を配置し、随時相談受付を行っている。 ・保護者会組織である後援会が組織されており、学校に事務局を設置している。また学生の状況については、必要に応じて保護者との情報共有に努めている。 ・卒業生を会員とした同窓会が組織され、学校に事務局を設置している。離職してしまう卒業生については、就職相談室にて相談及び既卒者向けの採用情報などを提供している。 ・高校との連携授業を1校（清水桜が丘高等学校）増やし、7校と連携している。 ・就職担当を専任で配置し、求人開拓を含む就職支援統括を学校として行っている。 ・課外授業としての学校行事・イベント（春遠足：ディズニーリゾート・11月：スポーツフェスティバル・秋遠足：各科ごと）は、安全に開催できた。このほか、各科の実習・研修などは安全に実施できた。 ・課外活動に対しては、適切な保険などに加入し安全に実施している。 ・実習室のパソコンおよび教室の環境整備については、社会のニーズ・教育の有効性を踏まえて計画的に整備している。	
<u>今後の改善方策</u> ・カウンセリングについては、毎週月曜日にスクールカウンセラーがカウンセリングを実施。利用機会は限られているが、学校にて緊急の事案と判断した場合は、定例のカウンセリング以外にも心配な学生が居る場合には、カウンセラーを手配し実施するようにしている。	

学校関係者 評価コメント
・ カウンセリングの利用しやすい環境作りは企業でも参考になると感じた。 ・ 学生への就職支援等が学生任せになっていないか、さらに多くのことが必要になってきているのではないかと感じる。 ・ 産業医の選定は、多方面から検討をしていただくと良い。 ・ 学生・保護者に対して、様々な手厚いサポート体制が整っていると感じる。 ・ 卒業研究発表会では、表現したいことを具現化できる器材が充実しており、学生たちが十分力を発揮されていると感じた。 ・ 取組みの成果がしっかり出ていると感じる。

(5) 教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか。
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている
5-5	防災に対する体制は整備されているか
5-6	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
学校関係者評価 4.0	
成果と課題 ・ 講義室及び実習室は、実習に必要な室数、面積、パソコン台数や実習機器が確保され、ソフトウェアについても定期的にバージョンアップが行われている。 ・ 毎年計画的に実習室の機器などの入替・メンテナンスを行っている。令和6年度は、各普通教室のプロジェクタを天吊りに変更し、学生使用可能なスペースを広げた。これは、令和7年度も継続する予定である。 ・ 屋上看板と西側階段の照明をLED化し、これで全てがLED照明となった。 ・ 放課後等実習室などの貸し出しに関しては適切に行っている。 ・ オンライン面接・説明会用スペース テレブースは、予約制により順調に貸し出しを行っている。 ・ 図書については各科で必要図書を購入して教室や実習室に配備し、学生が適宜閲覧できるよう整備している。 ・ 各講義室及び実習室における地震、火災等における避難経路は設定されている。新入生に関しては、4月中に避難経路の確認を行っている。 ・ 本校の防災訓練は、9月が大雨のため実施できず1月に実施した。 ・ 実習・インターンシップについては、各科事前指導を実施している。 ・ 研修旅行については、事前に2回説明会を実施し安全な実施に努めている。	
今後の改善方策 ・ 普通教室のプロジェクタを天吊りプロジェクタにする工事を継続しており、実習室の環境だけでなく普通教室の環境も適切に整備している。 ・ 校舎を静岡日本語学院と共同利用することになるため、避難経路など確認に努める。	
学校関係者 評価コメント ・ 設備コストは更新も含め大きな負担になるので、経営インパクトは大きいと思うが、学生エンゲージメントを高める上では重要（募集も含め）となるため、中期的な計画に則って投資いただきたい。 ・ 教育環境も良いと思うが、学外研修等はどのようになっているか知りたい。	

建築科であれば、鉄骨図面、製作、溶接、施工管理等、実際のことを学ぶことも大切である。 ・ 学生にとって教育環境が整っているため、より充実した学びが得られると感じた。また、このことが高校生など外部への魅力発信に繋がると思う。 ・ 静岡市の中心部にあり、交通の便も良い場所にありながら、近くに護国神社の森もあり、山もあり、静かで穏やかな教育環境にあると思う。「学びの場」として最適だと思う。 ・ パソコンソフトの定期的なバージョンアップなど、社会のニーズに対応し良いと感じる。

(6) 学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか
6-2	募集要項の内容は適切か
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
6-5	学納金は妥当なものとなっているか
学校関係者評価 4.0	
<u>成果と課題</u> ・ 2024 年度の募集活動の結果、2025 年度の入学者は、入学定員 210 名に対し 233 名となった。 ・ 入学案内について、本校の基本教育をはじめカリキュラムや目標資格等を明記できている。 ・ 募集要項について、入試方法や学費等他の専門学校と比較しても内容に不足等なく適切である。 ・ 学生募集活動にあたっては、虚偽・過剰なことの無いよう事実に基づいた情報提供と対応を実施している。 また、オープンキャンパス等のイベントについても状況に応じて運営方法を改良し対応できている。 ・ 教育成果についても、日々正確な情報の蓄積に努め、誤った情報が伝達されないよう厳正に対応している。 ・ 学納金については、日々の教育活動を維持するために必要な経費が確保できるものとなっており、他の専門学校各校と比較しても妥当な金額に設定されている。	
<u>今後の改善方策</u> ・ 学校全体の定員充足と、全学科の定員充足を目指し、募集活動上の対策を講じる。 ・ 2024 年 4 月より開設した「デジタル経営学科」について、認知度向上に努めるとともに大学併願者の受験も視野に入れた募集活動を展開する。 ・ 教育の質を担保するため、入学者選抜における適切な評価判定を行う。	
<u>学校関係者 評価コメント</u> ・ 少子化の進む中で、学生の募集も容易では無いと思うが教育の成果を積極的に打ち出してしっかりと獲得されていると思う。 ・ 入学者も定員より多く、良いと感じる。 ・ 最近の生徒は大学進学を希望する割合が高いと感じる。そのため、大学との連携をより深め、今後の少子化に対応していくことが課題になると思う。 ・ 学校案内には教育理念が分かりやすくきちんと載っていて好感が持てる。高校生は就職実績が気になる所ではあると思う。 ・ 募集の際、就職先の職種についても希望をもてる内容が掲載出来たら良いと感じた。	

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか
7-9	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか
7-19	自己評価結果を公開しているか
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか

学校関係者評価

4.0

成果と課題

- ・学校法人全体を統括する理事会・評議員会は年3回、5月、9月と2月に定期的実施され、議事録は適切に作成管理されている。
- ・就業規則などの諸規程は整備されている。全ての規程集については電子化されており、教職員がパソコンの画面で自由に閲覧できるよう整備されている。
- ・組織間の連携は、校長ミーティング及び4つの分科会（進路、教育、募集、総務）やワーキンググループ、中期計画策定委員会を中心に十分な連絡会議が持たれている。
- ・避難経路確認は、入学直後に行っている。また、防災訓練は、悪天候により延期となったが1月に実施した。
- ・セクシャルハラスメントのみではなく広くハラスメント全般に対応するようハラスメント委員会を設け、委員名や連絡方法、またハラスメントへの対応等を明記した文書を校舎内廊下に掲示している。
- ・情報セキュリティ委員を選任し、情報の持ち出しに対しては管理記録簿により管理している。
- ・学園の財務情報はホームページ上に公開され常時閲覧可能である。財務分析比率は適切な数値となっている。
- ・公開情報として、学校情報・カリキュラムポリシー・高等教育の修学支援制度を適切な時期にホームページにて公開している。

学校関係者 評価コメント

- ・防災訓練については、学生・教職員の安全確保に向けて、実効性のある形になっているかを点検して欲しい。
- ・学校運営等については健全に行われていると感じる。

- ・災害時、公共交通機関がストップした時、帰宅困難になる学生が多くなるような気がする。
- ・財務内容の安定が、各部分への投資、生徒数の安定に繋がっていて良いと感じる。

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか
8-4	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか
8-5	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
学校関係者評価	
3.8	
<u>成果と課題</u> ・学校施設を活用した、高校生の職業体験授業や技術体験授業、などを随時受託している。 ・留学生の受入体制について留学生サポート教員を選任し、クラス担当とともに留学生のケアに努めているが、欠席が非常に多く1名の退学者を出してしまった。 ・地域に対して、積極的な講座の公開は行っていない。 ・学校外の施設および学科に関係する団体へのイベントの公開を試みた。 例えば、複数学科にて卒業研究発表会を M20 ビルにて実施し、内定先企業に公開した。 医療事務科では、特別講座を保護者にも公開した。 こども保育科では、卒業研究発表会や他イベントに近隣園の園児を招待した。 ・上記のように、地域との連携を踏まえ年々公開する範囲を広めている。 ・地域貢献として、IT パスポート試験対策講座を県内大学生・一般に向けて実施した。 ・学校が窓口となり複数のボランティア活動を奨励・支援している。	
<u>学校関係者 評価コメント</u> ・多くの学生面接をした中で、社会参加型の活動（学生サークルのようなものを含め）に参加していた方は、主体性・自発性などを含めて優秀な見方・考え方を身に付けられているように感じている。ボランティアに限らず、社会参加型活動への参加を支援いただきたいと思う。 ・学校のイベント公開など、M20ビルで行うことは良いことと思う。M20ビル建設の関係者だが、企業も巻き込んだイベントであれば参加したい。 ・IT パスポート試験対策は、希望があれば高校生でも可能か。 ・留学生の受け入れは、他の国の文化を学ぶことができ、将来の職場でも今までより関わるが多くなるため、とても学生にとって良いと感じる。	